

# 2023年3月期 決算説明会

「真のグローバルサプライヤーとして  
社会から必要とされる企業」をめざして

株式会社 JSP



## 目次

### **1. 2023年3月期決算概要（2022年度実績）**

2. 2024年3月期見通し（2023年度見通し）

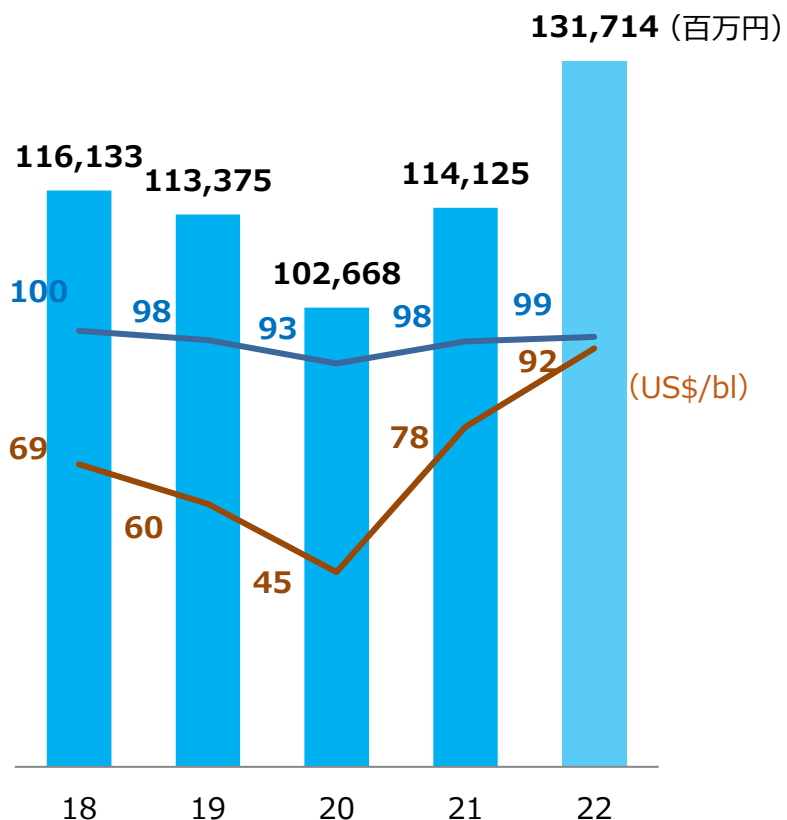
3. 用途拡大

4. 2023年3月期決算補足（2022年度補足）

# 業績ハイライト

## Growth

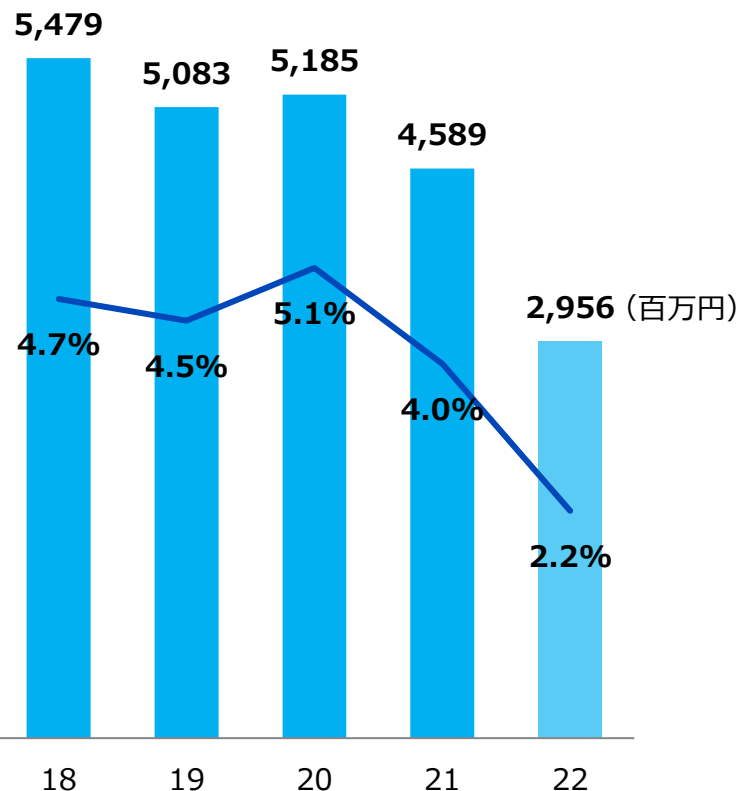
売上高・販売数量



青字は2018年度を100とした場合の販売数量  
赤字はドバイ原油価格

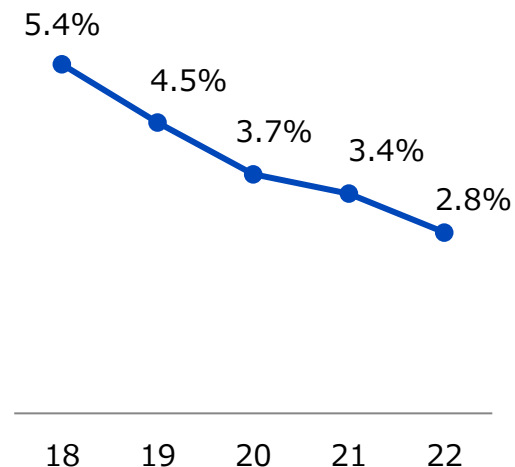
## Margin

営業利益・営業利益率



## Return

自己資本当期純利益率



## 決算概況

項目 (単位：百万円)	2021年度 実績	2022年度 業績予想 (2023/1/31)	2022年度 実績	前年 同期比	公表比
売上高	114,125	131,000	131,714	+15.4%	+0.5%
営業利益	4,589	3,200	2,956	△35.6%	△7.6%
経常利益	4,868	3,700	3,363	△30.9%	△9.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,893	2,700	2,531	△12.5%	△6.3%

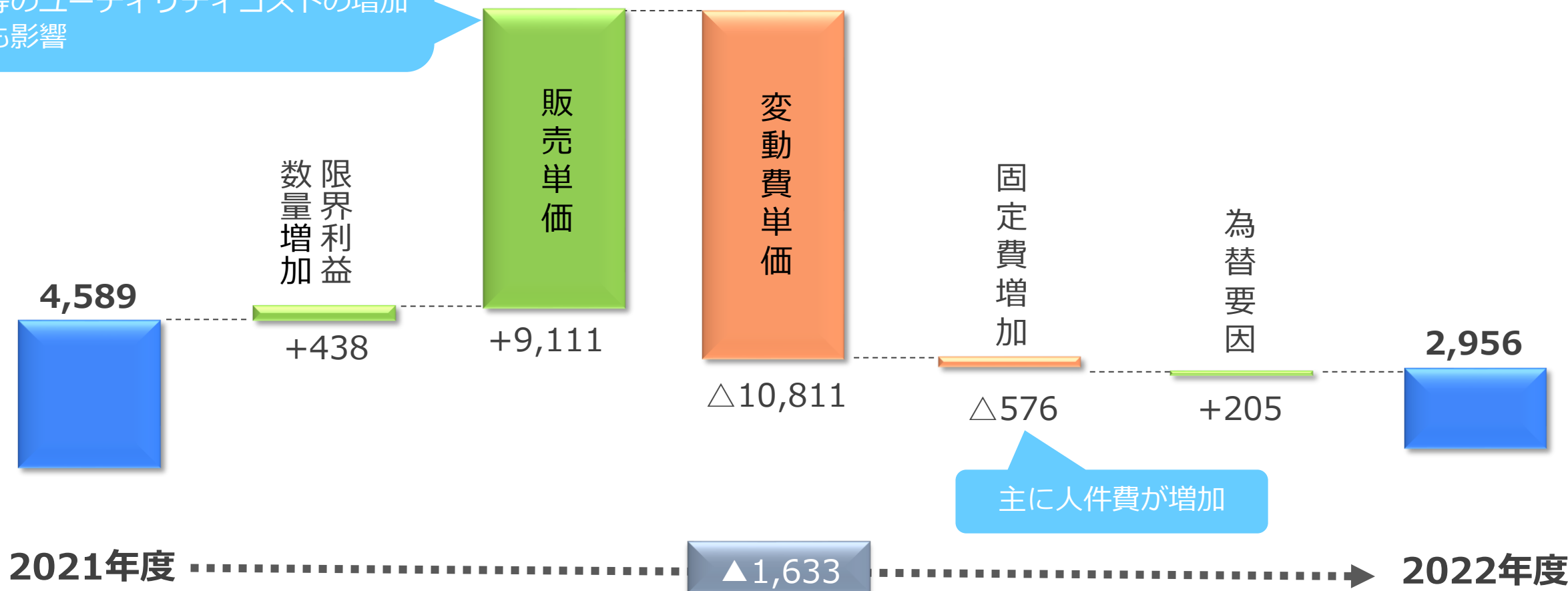
	2021年度	2022年度
ドバイ原油 (US\$/b1)	78.1	92.5
為替(円/US\$)	110.4	132.1
為替(円/€)	130.4	138.5

- 世界経済：新型コロナウイルス感染再拡大や半導体不足、ウクライナ情勢の長期化に伴う資源・エネルギー価格の高騰などの物価上昇などにより回復基調は鈍化。
- 日本経済：個人消費や設備投資は持ち直すものの、資源エネルギー価格の高騰や物価上昇、供給面での制約の影響などから先行きは不透明。
- 売上高：製品価格改定と数量の回復により前年比売上高は15.4%増。
- 営業利益：原料の価格改定は進捗するもユーティリティコストや人件費などの上昇により営業利益は前年比35.6%減。

# 営業利益の増減要因

販売単価要因と変動費単価要因の差は、原材料費の高騰に加え電力等のユーティリティコストの増加も影響

(単位：百万円)



## 貸借対照表

科目 (単位：百万円)		2022年3月末	2023年3月末	増減額
資産の部	流動資産	68,503	73,822	+5,319
	固定資産	66,024	70,706	+4,682
資産合計		134,527	144,528	+10,001
負債の部	流動負債	33,098	36,443	+3,345
	固定負債	11,197	11,961	+763
	負債合計	44,295	48,404	+4,109
純資産の部	株主資本	85,726	86,766	+1,040
	その他包括利益累計額	268	4,944	+4,676
	非支配株主持分	4,236	4,412	+175
	純資産合計	90,231	96,123	+5,892
負債純資産合計		134,527	144,528	+10,001

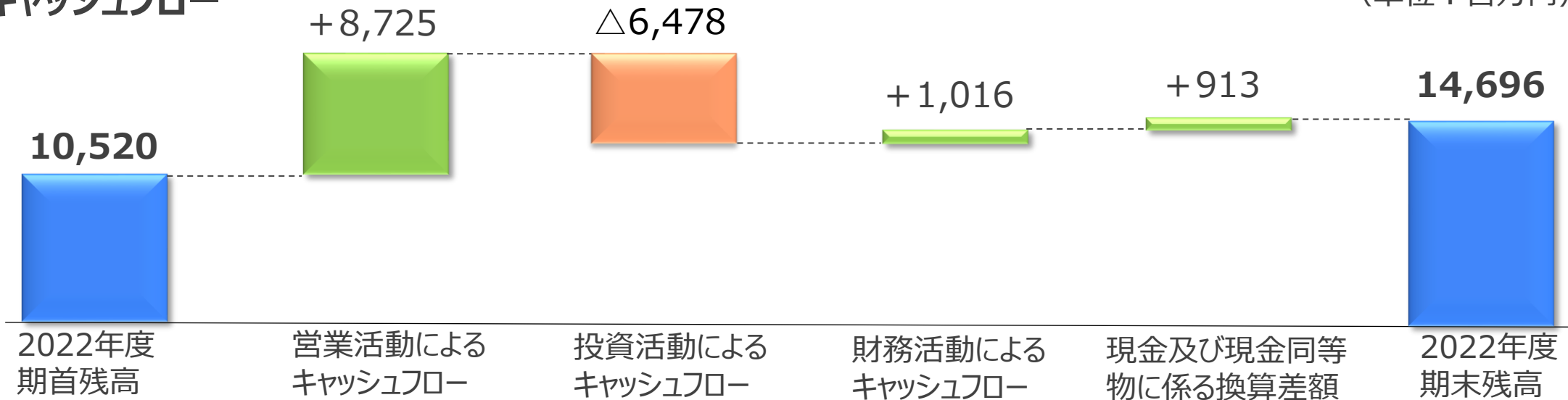
## 純資産の部

科目 (単位：百万円)		2022年3月末	2023年3月末	増減額
株主資本	資本金	10,128	10,128	-
	資本剰余金	13,405	13,405	-
	利益剰余金	63,580	64,621	+1,040
	自己株式	△1,388	△1,388	△0
	合計	85,726	86,766	+1,040
その他の包括 利益累計額	その他有価証券評価差額金	346	408	+61
	為替換算調整勘定	△810	3,864	+4,674
	退職給付に係る調整累計額	732	672	△59
	合計	268	4,944	4,676
非支配株主持分		4,236	4,412	+175
純資産合計		90,231	96,123	+5,892

# キャッシュフロー・設備投資額・減価償却費・研究開発費

## キャッシュフロー

(単位：百万円)



## 設備投資額・減価償却費・研究開発費

年度 (単位：百万円)	設備投資額	減価償却費	研究開発費
2022年度	8,200	7,137	2,277
2021年度	5,658	6,832	2,183

※設備投資額はキャッシュベースです。



## 押出事業

項目 (単位：百万円)	2021年度 実績	2022年度 実績	前年同期比
売上高	39,076	42,443	+8.6%
営業利益	2,782	1,767	△36.5%

製品価格改定により増収、価格改定時期の遅れ、ユーティリティコスト高騰により減益

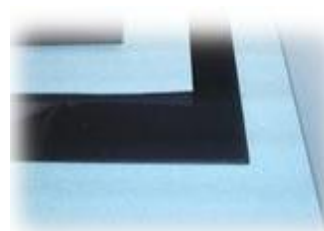
### 食品包材・容器



「スチレンペーパー」 「ミラボード®」

- 食品トレー向け分野の販売は増加
- 「ミラボード®」の販売も増加
- 製品価格改定の効果もあり、売上も増加

### 産業用包装材



「ミラマット®」  
「キャプロン®」  
「Pボード」

- 付加価値の高い産業資材製品は、生産調整の影響により販売は減少
- 汎用製品の販売も減少したことから、売上も減少

### 住宅用断熱材・土木資材



「ミラフォーム®」 「J-ウォールブロック」

- 建築・住宅分野向けの販売は前期並み
- 土木分野向けの販売も前期並み
- 製品価格改定により売上は増加

# ビーズ事業

項目 (単位：百万円)	2021年度 実績	2022年度 実績	前年同期比
売上高	68,513	82,761	+20.8%
営業利益	2,620	2,038	△22.2%

非自動車分野の販売増加や製品価格改定により増収、ユーティリティコスト高騰の影響により減益

## 自動車部品・家電緩衝材・グラウンド基礎材



「ピーブロック®」  
英名「ARPRO®」  
「エレンポール®NEO」



- 「ピーブロック®」は販売・売上とも緩やかな増加
- 国内：自動車分野での回復の遅れにより前期並み
- 北米：自動車・非自動車分野ともに増加
- 欧州：自動車分野は低調、非自動車分野の好調により前期並み

## 発泡性ポリスチレン・ハイブリッド成形品



「スチロダイア®」  
「ヒートポール®GR」  
「クリアポール®」  
「FOAMCORE」

- 「スチロダイア®」は水産分野などでの需要の影響により販売は減少、売上は製品価格改定により増加
- ハイブリッド成形品「FOAMCORE」は需要回復

その他

項目 (単位：百万円)	2021度 実績	2022年度 実績	前年同期比
売上高	6,536	6,508	△0.4%
営業利益	212	166	△21.5%

国内は自動車部品輸送関連等の販売回復で売上増、中国は需要の影響で売上減

国内一般包材

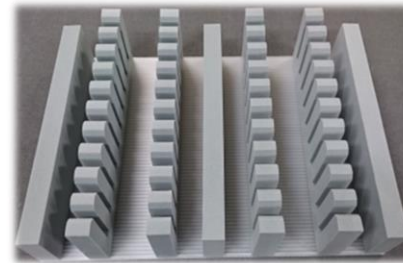


自動車部品トレイ



情報家電緩衝材

中国一般包材



自動車部品搬送材



光学部品緩衝材

- 自動車部品輸送関連等の販売が回復したことなどから売上は増加

- 各種部品関連の需要の影響により売上減少

## 目次

1. 2023年3月期決算概要（2022年度実績）
- 2. 2024年3月期見通し（2023年度見通し）**
3. 用途拡大
4. 2023年3月期決算補足（2022年度補足）

## 決算概況

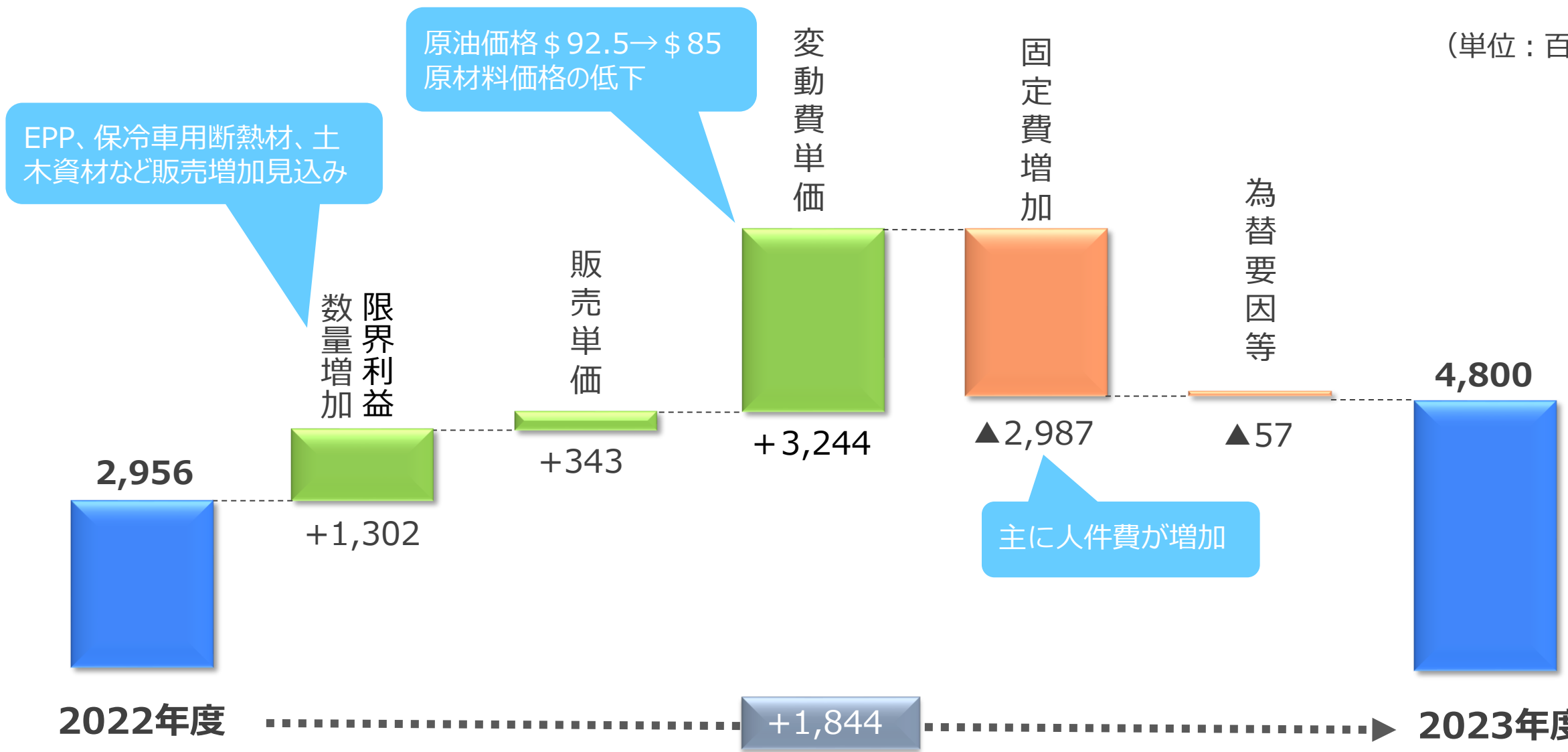
項目 (単位：百万円)	2022年度 実績	2023年度 予想	前年比
売上高	131,714	135,000	+2.5%
営業利益	2,956	4,800	+62.4%
経常利益	3,363	5,000	+48.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,531	3,400	+34.3%

	2022年度	2023年度 予想
ドバイ原油 (US\$/bl)	92.5	85
為替(円/US\$)	132.1	130
為替(円/€)	138.5	143

- 2023年度の世界経済見通し：ウクライナ情勢に伴うリスクはあるものの新型コロナウイルスの影響は解消され回復基調が継続。エネルギー価格やインフレは落ち着くも、労働力のひっ迫は続くと予測。
- 日本経済見通し：景気の先行き不透明感な中、物価上昇は引き続き進行し、個人消費などは慎重になると予測。
- 配当：1株当たりの配当金（予想）年間 50円  
（中間25円、期末25円（予想））

# 営業利益の増減要因

(単位：百万円)



## 押出事業

項目 (単位：百万円)	2022年度 実績	2023年度 見通し	前年比
売上高	42,443	43,700	+3.0%
営業利益	1,767	1,800	+1.9%

販売の増加により売上が増加、利益面は固定費の増加もあり前期並みの見込み

### 食品包材・容器



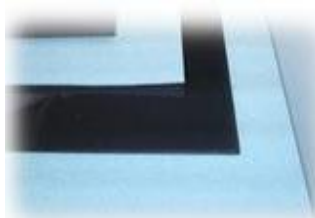
「スチレンペーパー」



「ミラボード®」

- 食品容器用の発泡ポリスチレンシート「スチレンペーパー」を中心とした生活資材製品は、環境対応型製品の上市などで、販売は堅調に推移する見込み

### 産業用包装材



「ミラマツト®」  
「キャプロン®」  
「Pボード」

- 産業資材製品の販売は、フラットパネルディスプレイ向けの販売が年度後半には回復し、堅調に推移する見通し

### 住宅用断熱材・土木資材



「ミラフォーム®」



「J-ウォールブロック」

- 住宅用断熱材は、建設資材高騰による消費マインド冷え込みの影響を受ける
- 保冷車用途は前期を上回る見込み
- 土木分野は好調に推移する見込み

## ビーズ事業

項目 (単位：百万円)	2022年度 実績	2023年度 見通し	前年比
売上高	82,761	85,000	+2.7%
営業利益	2,038	4,000	+96.2%

販売数量回復と製品価格改定により増収、増益見通し

### 自動車部品・家電緩衝材・グラウンド基礎材



「ピーブロック®」  
英名「ARPRO®」  
「エレンポール®NEO」



- 販売は、半導体などの部品供給不足の解消による自動車生産台数の増加や、コロナ禍からの回復から販売は増加の見込み
- 販売の増加と収益性の改善により、増益の見込み

### 発泡性ポリスチレン・ハイブリッド成形品



「スチロダイア®」  
「ヒートポール®GR」  
「クリアポール®」  
「FOAMCORE」

- 「スチロダイア®」等の発泡性ビーズ製品の販売は、水産用途向け製品関連などの需要減少の影響を受ける見込み
- 価格改定により売上高は増加し、利幅は改善される見込み



## その他

項目 (単位：百万円)	2022年度 実績	2023年度 見通し	前年比
売上高	6,508	6,300	△3.2%
営業利益	166	100	△40.1%

国内・中国とも売上は前年並みを予想

## 中期経営計画と4つの成長エンジン進捗状況

中期経営計画「Change for Growth」(2021年度~2023年度)

### 基本コンセプト

- ① 経済価値だけでなく、顧客や社会の課題解決などの社会的価値へと提供価値を拡大
- ② 経営基盤の強化

### 変革戦略

- ① 循環性の高いビジネスモデルへシフト
- ② 組織の活性化・効率化の推進

### 4つの成長エンジン進捗状況



自動車関連部品\*1



建築住宅断熱材\*2



FPD表面保護材



新たな事業領域

	自動車関連部品*1	建築住宅断熱材*2	FPD表面保護材	新たな事業領域
2023年度目標	+23%	+12%	+20%	売上高30億円
2022年度実績	+6.1%	△6.5%	+16%	売上高6億円
2023年度予想	+11%	+1%	+20%	売上高6億円

\*1 EPP事業の販売数量 \*2 建築土木事業の販売数量  
自動車関連部品、建築住宅断熱材、FPD表面保護材の欄は2019年度数量比です。

定量目標	単位：百万円
売上高	120,000
営業利益	7,700
営業利益率 (%)	6.4%
2023年度予想	単位：百万円
売上高	135,000
営業利益	4,800
営業利益率 (%)	3.6%

## 目次

1. 2023年3月期決算概要（2022年度実績）

2. 2024年3月期見通し（2023年度見通し）

### **3. 用途拡大**

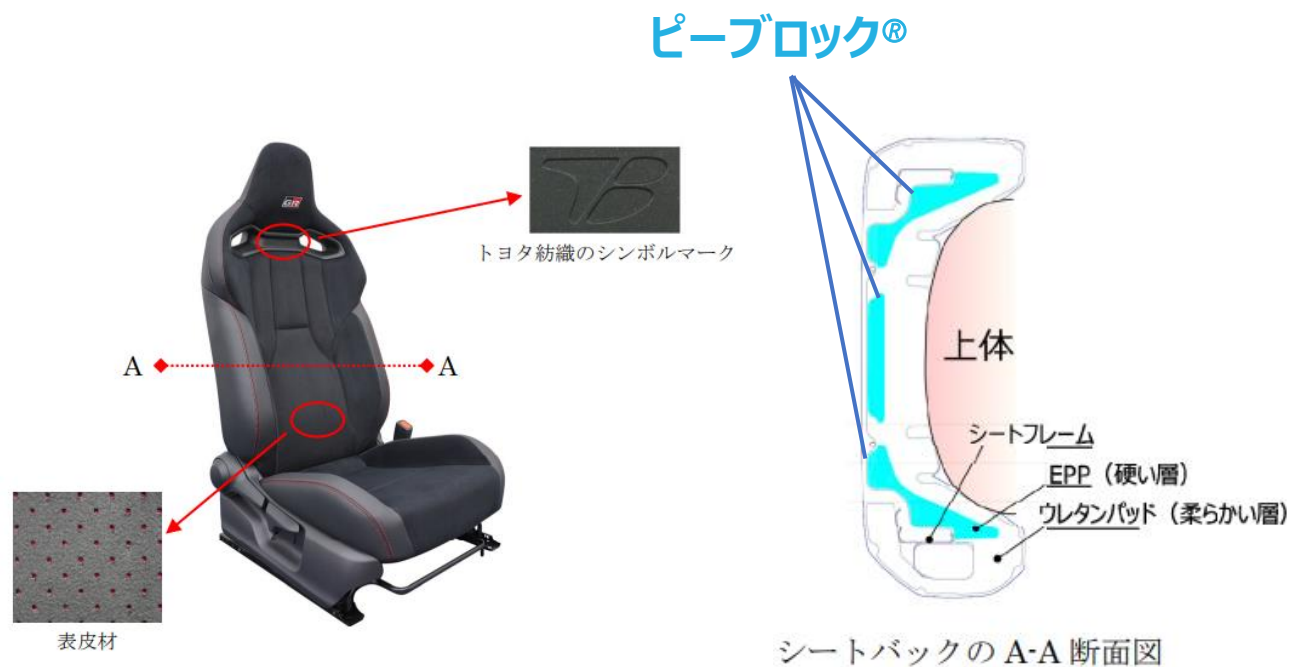
4. 2023年3月期決算補足（2022年度補足）

## ピーブロック®/ARPRO® 自動車用途採用拡大①

### 国内自動車向け 新規用途含め拡大

1. 昨年未発表の**5代目プリウス**のリアシートに採用
2. カローラスポーツの**フロントシート**の座面と背面にピーブロック®が採用

※右図は、ピーブロック®が採用された**カローラスポーツ**の**フロントシート**の写真と構造です。  
トヨタ紡織様のHPに詳細が掲載されていますのでご参照ください。



[トヨタ紡織開発のスポーツシートが G R カローラのモリゾウエディションに採用 | ニュース | トヨタ紡織株式会社 \(toyota-boshoku.com\)](https://toyota-boshoku.com)

## ピーブロック®/ARPRO® 自動車用途採用拡大②

### 中国自動車 EV用部材で採用拡大

自動車メーカー	車種名	採用部位
TESLA	MODEL-Y	リアシートコア
ZEEKR	01	リアシートコア
LIXIANG (理想)	L9 (X01)	リアシートコア、バック (背面)
LIXIANG (理想)	L8 (X02)	リアシートコア、バック (背面)
XPENG (小鹏)	P7	リアシートコア
JIDU (吉利+百度)	MARS-1	リアシートコア



## 成長エンジンの1つ ミラマットエース® 採用拡大イメージ

既存顧客への納入先拡大 と 新規顧客の採用拡大 が 進行中

FPD関連の用途は、PC・スマートフォン・TVから、自動車用や医療用デバイスなど更なる拡大が見込まれます。ミラマットエース®の性能の優位性は今後も高く、既存の表面保護材からの置き換わりは今後さらに加速すると見込んでいます。



## 目次

1. 2023年3月期決算概要（2022年度実績）
2. 2024年3月期見通し（2023年度見通し）
3. 用途拡大
- 4. 2023年3月期決算補足（2022年度補足）**

## 経営成績

年度 (単位：百万円)	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益
2022年度	131,714	2,956	3,363	2,531
2021年度	114,125	4,589	4,868	2,893

包括利益：2022年度 7,565百万円      2021年度 6,029百万円

年度	1株当たり 当期純利益	売上利益 高率
2022年度	84円91銭	2.2%
2021年度	97円06銭	4.0%

【主要な日本円への換算レート（1～12月）】

通貨	US\$	€	RMB
2022年度	132.09	138.53	19.49
2021年度	110.38	130.36	17.12



## 営業外損益・特別損益

### 営業外損益

科目 (単位：百万円)	2021年度	2022年度
受取利息	142	312
受取配当金	22	31
受取賃借料	76	79
為替差損	-	73
その他	322	350
営業外収益合計	565	847
支払利息	111	139
為替差損	27	-
デリバティブ評価損	-	124
その他	147	177
営業外費用合計	286	440

### 特別損益

科目 (単位：百万円)	2021年度	2022年度
固定資産売却益	34	20
投資有価証券売却益	-	95
受取保険金	70	151
子会社における 送金詐欺回収額	19	215
特別利益合計	124	482
固定資産売却損	53	1
固定資産除却損	137	207
減損損失	522	115
火災による損失	128	-
特別損失合計	842	324

## 財政状態

年度 (単位：百万円)	総 資 産	純 資 産	自己資本比率	1 株 当 た り 純 資 産
2023年3月末	144,528	96,123	63.5%	3,076円73銭
2022年3月末	134,527	90,231	63.9%	2,884円93銭

(参考) 自己資本 2023年3月末 91,711百万円 / 2022年3月末 85,995百万円

### 【主要な日本円への換算レート】

通貨	US\$	€	RMB
2022年12月末	132.74	141.50	19.03
2021年12月末	115.01	130.55	18.06

(ご注意)

本資料の予想は現時点で入手可能な情報に基づき算出したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

株式会社 J S P

お問合せ Tel 03-6212-6306 広報IR室